

国語科学習指導案

三次市立十日市小学校

指導者 大澤八千枝

- 1 日 時 平成26年9月24日(水) 5校時
- 2 学 年 第4学年 に組27名
- 3 単元名 対比のしくみをまとめよう ～対比の仕方をくらべて読もう～
主教材「アップとルーズで伝える」 中谷日出 (光村図書4年下)
副教材「たこのすみいかのすみ」「くらしの中の和と洋」
- 4 単元について

○ 本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年「読むこと」の指導事項イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」を受け、児童が対比や具体・抽象を用いた説明の仕方や段落相互の関係をとらえながら筆者の伝えたいことを読み、自分の考えをもつことをねらいとしている。

本学習材「アップとルーズで伝える」は、テレビと新聞という児童の生活に密着したメディアを取り上げ、送り手が相手や目的に合わせて「アップ」と「ルーズ」を選んで伝えていることを説明した文章である。「はじめ」はなく「中1」①～⑥段落、「中2」⑦段落、「おわり」⑧段落という構成になっており、④⑤段落でアップとルーズを対比して説明している。テレビと新聞という二つの事例の取り上げ方の違いやまとめ方が特徴と言える。文章全体を貫く問いはないが、題名の「アップとルーズで伝える」にその役割がかくされており、文章化すると「アップとルーズでどのように伝えているのだろう」となる。アップとルーズの使い方を分かりやすく伝えるための工夫として次の点が挙げられ、これらをとらえさせることが学習の中心となる。

- ・ 「アップ」と「ルーズ」を対比させる形で段落や文章が構成されている。
- ・ 写真が効果的に活用されている。
- ・ 文章構成として事例が詳述、略述されている。

○ 本学級の児童は、これまで「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」の学習において、各段落の要点をとらえ、筆者の伝えたいこととそのための書きぶりの工夫を視点に読む学習をした。内容を読み取ることができる児童は多いが、文章全体をとらえ、段落のつながりや筆者の工夫を視点に読む力は十分付けることができていない。そこで、説明文の基本形やはじめ—なか—おわりを考えさせたり筆者の伝えたいことをとらえさせたりする活動を行っている。また、比較、分類、関連などの思考過程を大切にしたり取り組みを継続しているところである。

できるだけ多くの教材文を読ませ、説明文には様々な構成があることをとらえさせたい。

○ 指導にあたっては、説明の方法として多く用いられる対比を視点に説明文を読み解く。「対比」とまとめてしまうが、その関係はさまざまである。そこで対比が用いられている説明文を比べて読むことを通して、対比の効果を考えさせ段落の関係や説明の工夫をとらえさせる。そして生活の中でものごとを比べてみていく力につないでいく。

「たこのすみいかのすみ」は、同じ観点ですみを紹介し二者を比較している、もっとも基本的な比較の方法である。また「～は～より～」と比較することでまとめをした構成をとっている。「くらしの中の和と洋」では、③段落で観点を限定し、その違いに関わる「過ごし方」と「使い方」の違いや良さを本論1と本論2で説明している。それぞれの良さを比べるにあたり、比較の観点を明確にする③段落の役割は重要であると考えられる。これらをプレ教材として、「アップとルーズで伝える」を学習させる。視点は対比の仕方である。アップとルーズでの分かること分からないことを表にまとめさせ、その表の中から「対比はいくつ？」と児童の考えをゆさぶる。この構造を考えることで、段落相互の関係に気づかせ筆者の論の展開の工夫をとらえさせる。

また、筆者の工夫として、写真の効果や文章構成のくふうをとらえさせる。そのために、教材とは違う写真、レイアウトの教材文を用意し比較させたり、文章構成図を用いて、「中2」の必要性について意見交流させたりして、写真の使い方や新聞の事例の役割、はじめがない構成を評価させる。

単元を貫く言語活動は「対比のしくみをまとめよう」である。三つの教材文の対比のしくみを読み比べ、「違いが明確になる」「そのものの特徴が浮かび上がる」という対比の効果をとらえさせていく。併せて、簡単な対比を使った書く活動を行っていく。4年生終了時には、「説明文を書く」という目標をもって学習している。その活動へのステップとし児童の目的意識としたい。

物語文とも関連させながら、2学期を貫く視点を「対比」として学習を進める。

5 単元目標

- 説明文を比べ、さまざまな文章構成や対比関係を見つけながら読もうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。
(C読むことイ)
- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使う。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ク))

6 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
複数の説明文を読み、さまざまな構成や論の展開の工夫があることに関心をもっている。	書かれている内容や段落の関係を理解し、文章構成や対比を用いた筆者の工夫を考えながら読んでいる。	文章全体の組み立てや段落の役割を理解している。

7 単元指導計画 (全12時間)

次	学習の展開	評 価				
		関	読	言	評価規準	評価方法
一次 (5)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">説明文の対比を見つけよう 対比の仕方は同じかな？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「たこのすみいかのすみ」の対比関係を読む。 [1][2] ・「くらしの中の和と洋」の対比関係を読む。 [3][4] ・「くらしの中の和と洋」の段落の関係を考える。 [5] 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・たこといかのすみの特徴を対比して表にまとめることができている。(読) ・対比を視点に構成や表現に関心を持ち、意欲的に説明文を読もうとしている。(関・意) 	観 察 ノ ー ト 発 言
	<ul style="list-style-type: none"> ・「アップとルーズで伝える」を読み内容をとらえる。 [6] ・「アップとルーズで伝える」の筆者の工夫をとらえる。 [7][8] ・「アップとルーズで伝える」の対比をほかの対比と比べながら読み取る。 [9]〈本時〉 ・段落の関係をまとめ、対比を比べて図に表す。 [10] 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の「10の観点」をもとに段落の要点やキーワードを読み取っている。(読) ・文章構成、写真の使い方、定義づけなど筆者の工夫を見つけてその効果を吟味することができる。(読) ・対比の構造、効果をとらえ、筆者の工夫を評価することができる。(読) ・三つの説明文の段落の関係を図に表してまとめることができている。(読) 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">それぞれの対比を紹介しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文の対比の効果を紹介する文を書く。 [11] ・書いた紹介文を交流し対比の効果を話し合う。 [12] 	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・対比の使い方を考え、そのしくみをとらえることができている。(読) ・接続語や指示語の役割を考えることができている。(言) ・進んで紹介文を書き、交流しようとしている。(関・意) ・説明文の構成や対比の使い方の違いに関心をもっている。(言) 	

8 本時の学習

(1) 目標

○ 対比の使い方を比較することを通して、対比の効果をとらえ筆者の工夫を評価することができる。

(2) 評価規準

○ 対比の構造、効果をとらえ、筆者の工夫を評価することができる。(C読むこと)

(3) 児童に期待する活動とその手立て

① 児童に期待する活動

○ 説明文による対比の仕方を比較して、その効果を表現することができる。

② その手立て

○ 表を使って対比関係をとらえさせる。また、表の観点に着目させる。

(4) 展開

学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	☆達成のための手立て ○評価（評価方法）
<p>1 「たこのすみいかのすみ」「くらしの中の和と洋」の対比関係を想起させる。</p> <p>2 「アップとルーズで伝える」に対比が使われていることを確認する。</p> <p>○ 「くらしの中の和と洋」の対比と同じかな？</p> <p>3 課題を確認する。</p>	<p>・「たこのすみいかのすみ」は観点到に沿ってそれぞれを説明して比べていた。「くらしの中の和と洋」は③段落で比べる観点を示して和と洋のよさを比べていた。</p> <p>・④⑤段落でアップとルーズで伝えられることと伝えられないことを対比している。</p> <p>・二つを比べてあるから同じ。</p> <p>・「アップとルーズで伝える」には「くらしの中の和と洋」の③のような役割の段落はない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>対比の仕方は同じ？違う？ どのように紹介する？</p> </div>	<p>☆これまでの説明文における対比関係を振り返らせ、比べ方の違いを押さえる。</p> <p>☆④⑤段落の対比の書かれ方の工夫を見つけようと音読させる。</p> <p>☆「くらしの中の和と洋」の文章構成を図で示して視覚的にわかりやすくする。</p> <p>☆まず、直感的に対比の仕方が同じか違うか考えをもたせる。</p> <p>☆説明文を比べて読むという課題を明確にする。</p>
<p>4 「アップとルーズで伝える」の対比を読み取る。</p> <p>○ 表を作って比べてみよう。</p> <p>○ 対比がいくつ使われているかな？</p> <p>○ 「くらしの中の和と洋」は二つの対比。どうして違いが生まれるのかな？</p> <p>○ こんなにたくさんの対比を使うとどんないいことがある？</p>	<p>・観点は「伝えられること」と「伝えられないこと」だ。</p> <p>・4つだと思う。わかることとわからないことがあるから。</p> <p>・表の上下、横に対比があるよ。</p> <p>・六つあるよ。表の斜めにも対比がかくれている。たくさんの対比関係になっている。</p> <p>・「アップとルーズ」は比べる観点自体が対比になっているから、たくさんの対比になる。</p> <p>・アップとルーズの違いや関係がよくわかる。だから、筆者の言いたいことがよくわかる。</p>	<p>☆これまでのように表にかけば対比がよくわかることをとらえさせ、表を作らせる。横軸・縦軸の観点を考えさせる。</p> <p>☆表にはキーワードでまとめさせる。</p> <p>☆できた表の中に対比がいくつあるか矢印をつけさせ、多くの対比関係が成立していることを視覚的にとらえさせる。</p> <p>☆対比の数に着目させ、数の違いがどうしてあるのか考えさせる。</p> <p>☆⑥段落のまとめとのつながりを考えさせる。</p> <p>☆「アップとルーズで伝える」の対比の使い方をペアで評価させて確認した後、自分の考えを書かせる。</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>○ 「アップとルーズで伝える」の対比のすごさ（よさ）をまとめましょう。</p> <p>説明文を書くとき、一番書きやすそうなのはどれ？どの対比で書いてみたい？</p> <p style="text-align: center;">【ペア→個人】</p> <p>6 振り返りをする。</p>	<p>・6つもの対比関係を書くのはすごいと思う。④⑤段落でアップとルーズの違いを説明して⑥段落でまとめているからわかりやすい。</p> <p>・観点が対比になっているというのはすごい。</p> <p>・むずかしそうだけれど、たくさんの対比を使ってみたい。</p> <p>・対比にもいろいろな方法があって筆者は伝えたいことによって使っているのですごい工夫だと思いました。</p>	<p style="text-align: center;">【自己決定の場合】 【共感的人間関係の育成】</p> <p>○対比の構造の違いをとらえ、筆者の工夫を評価することができる。(ノート)</p> <p>☆「一番すごい対比はどれ？」と聞くことで、対比の仕組みを比較させる。</p> <p>☆対比を使って説明すると違いが明確になることから筆者の工夫をとらえさせ、自分の文章に生かすことを押さえる。</p>

めあて

対比の仕方は同じ？違う？どのように紹介する？

アップとルーズで伝える

中谷日出

ちがうみたいだな

どんな対比だろう

観点が対比

ルーズ ⑤	アップ ④
広いほんい の様子	細かい部分 の様子
でも	しかし
顔つきや視線、 気持ち	うっされていな い多くの部分
伝えられること	伝えられないこと

対比は六つ ↓ 違いがよくわかる
筆者の伝えたいことにつながっている

「くらしの中の和と洋」は対比は二つ ↓ 観点が違う

「くらしの中の和と洋」には比べる観点をはつきりする③だん
らくがあった

まとめ

たぐさんの対比関係になつてゐるのでアップとルーズのち
がいがよくわかります。アップでわかることがルーズではわ
からないことになつてゐるのでおもしろいす。この説明文
の対比は、観点が対比なのでたぐさんの対比になるところが
すごいす。

ふりかえり

たぐさんの対比があつた「アップとルーズ」のよ
うな対比を使つてみたい。

10 言語活動例

「アップとルーズで伝える」	「くらしの中の和と洋」	「たこのすみいかのすみ」	題名
アップとルーズで伝えられるものと 伝えられないもの	和室と洋室のよさ	たこのすみとたこのすみ	対比
			段落構成
この説明文は、テレビや新聞の送り手が、目的や相 手に合わせて「アップ」と「ルーズ」を選んで伝えて いることを説明した文章です。 筆者は、④⑤段落でアップとルーズの伝えられるこ とと伝えられないことを対比しています。たぐさんの 対比関係になつてゐるのでアップとルーズのちがいが よくわかります。アップでわかることがルーズでは わからないことになつてゐるのでおもしろいす。こ の説明文の対比は、観点が対比なのでたぐさんの対比 になるところがすごいす。	この説明文は、和室と洋室のよさのちがいを説明し ています。 筆者は、③段落で、「和室と洋室の違いは、ゆかの 仕上げ方とそこに置かれてゐる家具だ」と比べる観 点を書いて、そのちがいに開わる「過ごし方」と「使い 方」のちがいや良さを本論1と本論2で説明していま す。それぞれの良さを比べるために、比較の観点を書 いてゐる③段落はとても大切で、筆者の工夫だと思 います。	この説明文は、たこのすみとたこのすみにはどんな ちがひがあるかを説明しています。 筆者の、「すみをはいたあと」「すみのようす」「や くわり」にてゐること（ひゆ）という観点を決めて 比べてゐるところが工夫です。観点がばらばらだとく らべることができません。そして、最後は、「いかは たこよりも」という対比の仕方でもとめをしていま す。	対比の仕方（自分の考え）

対比のしくみを紹介しよう

[国語科 「アップとルーズで伝える」 (4年下)]

《教材の特質》

本教材は、テレビと新聞というメディアを取り上げ、送り手が相手や目的に合わせて「アップ」と「ルーズ」を選んで伝えていることを説明した文章である。「中1」①～⑥段落、「中2」⑦段落、「おわり」⑧段落という構成になっており、④⑤段落でアップとルーズを対比して説明している。テレビと新聞という二つの事例の取り上げ方の違いやまとめ方が特徴と言える。分かりやすく伝えるための工夫として次の点が挙げられ、これらをとらえさせることが学習の中心となる。

- ・ 「アップ」と「ルーズ」を対比させる形で段落や文章が構成されている。
- ・ 写真が効果的に活用されている。
- ・ 文章構成として事例が詳述、略述されている。

〈言語活動の設定〉「対比のしくみを紹介しよう」
対比を使うとどんないいことがあるのかな？

《学習活動》

〈プレ学習〉

対比を使った説明文を読み、「比較の観点」や「表」の作り方を学習する。

教材文「たこのすみいかのすみ」(学校図書2年)を用いて、対比という意味、表の作り方(観点)、文章構成図(対比のしくみ)の作り方を学習する。

これまでの説明文を想起し、対比が使われている説明文が多いことを確認する。

「対比が多く使われているのはなぜ?」「対比が使われていると、どんないい事があるの?」「対比の仕方はみんな同じ?」という課題意識をもたせ、複数の説明文を読んで「対比のしくみを紹介しよう」という言語活動を設定する。

プレ教材の学習を活用

して「暮らしの中の和と洋」(東京書籍4年)を読む。対比を表でまとめ、文章構成図で対比のしくみをまとめる。この教材では、対比についての観点が示されている③段落の役割を考えさせることが重要であるので、③段落の必要性を話し合った。

The image shows two pages of handwritten student work on grid paper. The left page features a flowchart diagram with circles and arrows, and a paragraph of text with annotations. The right page contains a table comparing 'Ika' (いか) and 'Tako' (たこ) across several points, with a vertical note on the right side.

いか	たこ	たけ
⑨ なれる。	⑥ さかす。	④ せいす。
⑧ よい。	⑤ きみに。	③ 少ない。
⑦ はやくお。	② ように。	① けむりの。
① 強い。	② けむりの。	③ やくわり。
② 黒いかた。	③ けむりの。	④ たく。
③ けむりの。	④ けんま。	⑤ たこ。
④ けんま。	⑤ たこ。	⑥ けんま。

Vertical note on the right: ながい表に整理しよう。

【「たこのすみいかのすみ」表・文章構成図】

二つの教材文の対比のしくみが違うことをとらえさせ、「くらしの中の和と洋」の対比は複雑な仕組みになっていることをおさえる。

また、比較には観点が必要であることも繰り返し指導する。比較の観点を自分で見つけることができるような力を付けたい。そして、対比することの良さも気付かせていく。

このプレ学習を活用して、「アップとルーズで伝える」の学習を行う。

くらしの中の和と洋

対比のしくみをしようかいいしよつ。

この説明文は和室と洋の良さが対比してあります。

筆者は、③だんらくで「床のし上げ方」と「家具」という「観点」のものを書き本文の中で使った方の良さを「くらしの中の和と洋」に比べて、③だんらくは本文の中で良さが対比できるようにするやわわりをしていいます。③だんらくは観点のもとなのでとても大切です。

洋室	和室
・長時間同じでいて、いともつかれたりしない。次の行動にうつりやすい。	・長時間同じでいて、いともつかれたりしない。ていつて見当がつく。
・自由にかえられる。	・自由にかえられる。
・いろいろなしせいなとる。ことがでできる。	・いろいろなしせいなとる。ことがでできる。
・人との間かくが	・人との間かくが
・はじめたずねた人やてあ	・はじめたずねた人やてあ
・つかつことかてさる。	・つかつことかてさる。

観点

① 床のし上げ方

② 家具

③ だんらく

観点の比

だんらくが、最も大きな観点。

観点の比

【「くらしの中の和と洋」表・文章構成図】

【学習展開 1】学習材「アップとルーズで伝える」を読み、説明内容の大体をとらえる。

- ・ 各段落の要点をまとめる。
- ・ 筆者の伝えていることをとらえる。

【学習展開 2】対比のしくみを読む。これまで読んだ二つの説明文の対比とどう違うかな？

- ・ 表を作り、対比関係をとらえる。
- ・ 対比を用いることのよさを考える。
- ・ まとめとのつながりを考える。

《本時「対比のしくみを読む」の学習展開を示す》

- ④⑤段落でアップとルーズで伝えられることと伝えられないことを対比していることを押さえる。
- ①②段落も対比だが③段落で定義をするための段落と考えて、明確に対比している④⑤段落を取り上げる。

(1) 課題を確認する。

対比の仕方をどのように紹介すればいいかな？

- 「対比を紹介する」という単元の言語活動と関連付け、この説明文の対比関係をどのように紹介すればいいかという課題意識をもたせる。

(2) 「アップとルーズで伝える」の対比を読み取る。

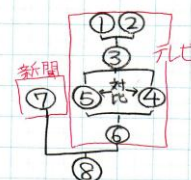
この説明文の対比はどんな仕組みになっているのだろう。

- 表を用いて、どのような対比かを整理する。
- 表を手がかりに対比はいくつあるか考える。
- 対比の効果を考える。たくさんの対比が使っていると、どんな良さがあるのかを考え、意見交流する。
 - ・ アップとルーズのちがいや関係がよくわかる。だから、筆者の言いたいことがよくわかる。
 - ・ 違いが強調されて、筆者が伝えたいこと⑥⑧段落につながっている。等の意見を引き出す。

(3) 対比のしくみをまとめる。

「アップとルーズで伝える」の対比のすごさ（良さ）を紹介しましょう。

- ・ 6つもの対比関係を書くのはすごいと思う。④⑤段落でアップとルーズの違いを説明して⑥段落でまとめているからわかりやすい。
- ・ 観点が対比になっているというのはすごい。むずかしそうだけれど、たくさんの対比を使ってみよう。



文章構成図

アップとルーズで伝える

この説明文は、観点じたいを対比し、中で六つ対比してアップとルーズを分かりやすく説明しています。

対比をたくさん作ることでアップとルーズのことを分かりやすく伝えることができます。そして、最大なちがいや特徴を分かりやすく伝えることができます。

このような作りにならないと、⑥だんぐくがこまります。だから筆者は工夫をし、対比を六つも作っています。

この説明文は、筆者のいろいろな工夫がたくさんつかわれているのでこの説明文が好まれます。

中谷 日出

この説明文は対比が六つ

ルーズ	アップ
⑤	④
広いはんしの様子がよく分かります。	細かい部分の様子がよく分かります。
顔つきや視線をみたら、感じよか分かります。	つづられていない多くの部分のことはアップでは分かりません。

観点がたいが対比がわかりません。

ちがいがよく分かる。それぞれの特徴がよく分かる。

【「アップとルーズで伝える」表・文章構成図】

この後、三つの説明文の対比を比べてまとめを書いた。今後の「説明文を書く」学習に活用させたい。

【学習展開 3】
 筆者の工夫を読み取る。(対比以外の工夫をまとめる)

- ・ 定義づけをしている。
- ・ 写真を効果的に使っている
- ・ 問いと答え など

【学習展開 4】
 文章全体の構成をとらえる。

- ・ まとめが二つあることの意味
- ・ 「はじめ」のない文章構成
- ・ テレビの事例と新聞の事例の書き方の違い

本教材には、対比以外にも上記のような筆者の工夫やとらえさせたい論の展開がある。対比という考え方や文章構成図と関連させながら、「写真の効果」「テレビの事例と新聞の事例の書き方の違い」「はじめのない文章構成」等に気付かせ、その効果を考えさせた。

児童は比較的短い文章の中に多くの工夫や筆者の意図がかくれていることをつかむことができた。

アップとルーズで伝える

筆者の工夫をしようかいいしよ。

この説明文には、はじめがありません。これが筆者の工夫です。わけは、はじめがないこと、読者の試合を放送して、今、テレビで読むという言葉を、今、テレビで読むよまきこんで、読んでもらっているのだと思

二つ目は、④と⑤だんぐのまとめをしようかいいしよ。

⑥だんぐの⑦だんぐの⑧だんぐの⑨だんぐの⑩だんぐの⑪だんぐの⑫だんぐの⑬だんぐの⑭だんぐの⑮だんぐの⑯だんぐの⑰だんぐの⑱だんぐの⑲だんぐの⑳だんぐの㉑だんぐの㉒だんぐの㉓だんぐの㉔だんぐの㉕だんぐの㉖だんぐの㉗だんぐの㉘だんぐの㉙だんぐの㉚だんぐの㉛だんぐの㉜だんぐの㉝だんぐの㉞だんぐの㉟だんぐの㊱だんぐの㊲だんぐの㊳だんぐの㊴だんぐの㊵だんぐの㊶だんぐの㊷だんぐの㊸だんぐの㊹だんぐの㊺だんぐの㊻だんぐの㊼だんぐの㊽だんぐの㊾だんぐの㊿だんぐの

【「アップとルーズで伝える」対比以外のまとめ】